

### III 授業改善の実例

第5学年 国語科

【最後の場面の叙述を、それまでの場面の叙述と結び付けながら、物語の全体像をとらえて読む姿】をイメージした授業

油井小 西屋 純

#### 1 本单元における夢中になって学ぶ姿

時間	場面	学習活動(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等
1	課題設定	全文を通読して初読の感想や考えをもったり、単元の学習課題を設定して学習を見通したりしている。	どんな場面が描かれているかを考えて通読し、初読の感想をもっている。(態)
2	構造・内容把握	場面ごとに中心人物「綾」の前に現れたものや人物を整理し、広島に行くまでの心情をとらえている。	登場人物の心情をとらえる際、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(知・技)
3	構造・内容把握	広島での「綾」の心情の変化をとらえている。	登場人物の心情をとらえる際、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(知・技)
4	精査・本時	最後の場面の叙述から中心人物の心情について読み深めることで、物語の全体像をとらえている。	表現の効果を考えることで、物語の全体像を具体的に想像している。(思・判・表)
5	考えの形成	作品を読んで理解したことや自分の考えの変化について感想や意見をまとめている。	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(思・判・表)
6	共有	前時にまとめた自分の考えをグループで交流しているとともに、単元を振り返っている。	文章を読んでまとめた意見や感想を交流し、自分の考えを広げている。(思・判・表)

#### 2 本時における研究の視点

**視点I【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】**

① 中心人物に影響を与えた人やもの(資料館の展示、祈念館の映像、おばあさん)の役割(中心人物に与えた影響)について考えさせることで、物語の全体像をとらえるきっかけになるようにする。

○ 中心人物に影響を与えた人やもの(資料館の展示、祈念館の映像、おばあさん)の役割(中心人物に与えた影響)について考えさせることで、物語の全体像をとらえるきっかけになるようにする。



資料館の展示品は綾に原爆のひどさを分かってほしいと伝えてるんだと思う。

祈念館の映像は色々な表情をした人が確かにいたことと、原爆がその人たちの人生を壊したことを伝えたいんじゃない？

② 異なる場面の叙述のつながりを示しながら中心人物の変容を話し合うことで、物語の全体像をとらえられるようにする。

○ グループや全体で話し合う際、自分の考えの共通点や相違点に着目させることで、根拠とする文章の解釈は人によってさまざまであることを実感させながら読み深められるようにする。

【全体での話し合い】

T: おばあさんの姿や言葉を、綾はどのように受け止めたのかな。

C: おばあさんの言葉によって、アヤちゃんの夢や希望を叶えようと思うようになった。

T: どの部分からそのように考えたの？

C: 「ここでどんなに～すむかもしれない」ってところ。

T: この部分から他に考えている人もいるかな？○○さんはどう？

C: 今のところと「この楠木アヤちゃんの～おくらしなさいよ」のところから、今の自分と重ね合わせて「アヤちゃんの思いを引き継ぐ！」って考えました。

**視点II【学びの連続性につながる振り返り】**

<振り返りの視点>

① この時間、どのように学習に取り組んだか(特にどこに力を注いだか)。

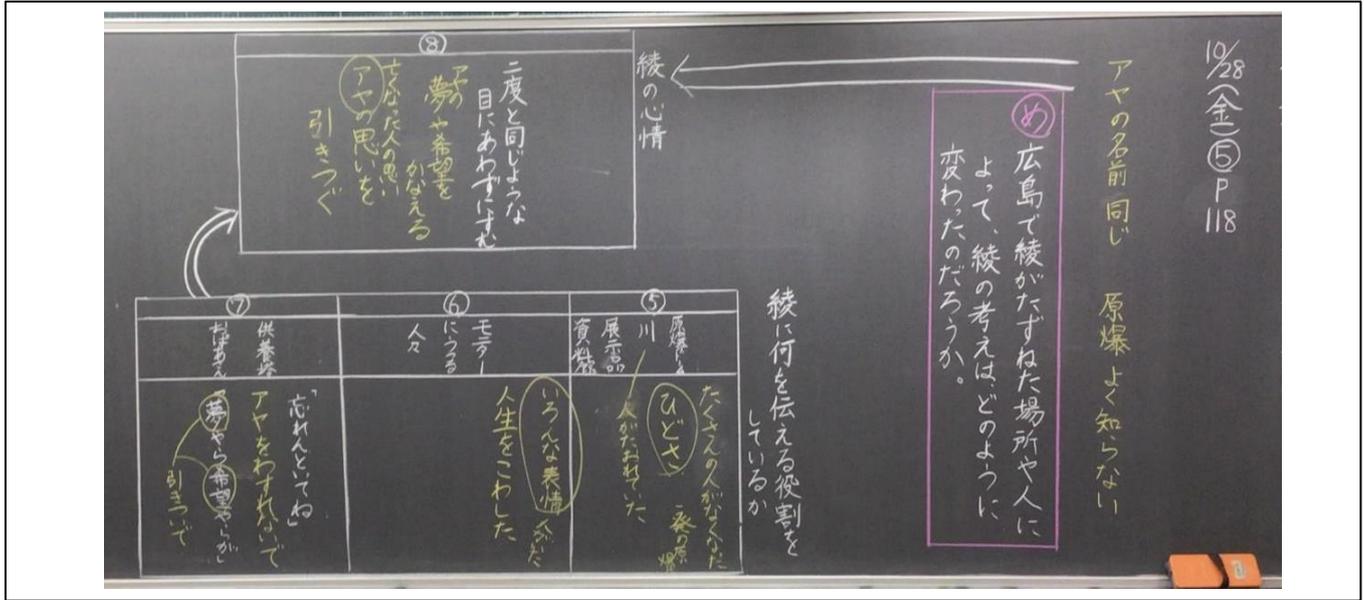
② よかった・参考になったと思った友達の考えは何か。 【本時で強調した視点】

綾は、自分と同じ「楠木アヤ」を探す中で、原爆で亡くなった人たちの夢や希望を引き継ぐ役割を学んでいたのだから、心情が大きく変わったことが分かった。

「きれいな川はきれいな川でしかなかった」など、難しい言葉が多いと思ったけど、言葉の意味を考えてみると、綾が戦争のひどさに衝撃を受けながら、その事実を受け止めようとしている気持ちがよくわかるようになってきた。

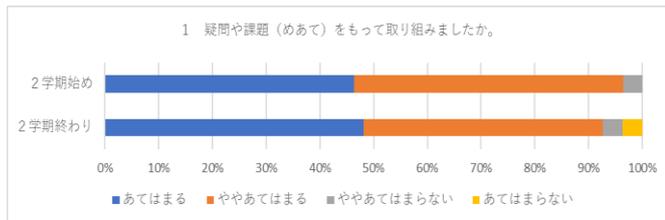
○○さんの「アヤちゃんの思いを引き継ぐ」という考えが参考になった。次はもっと友だちの意見を聞きながら学習したい。

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

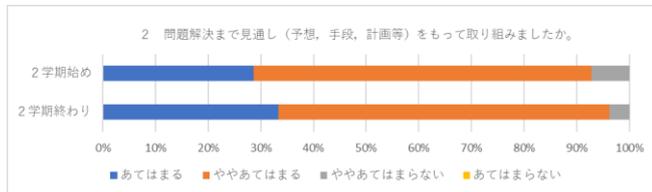


3 アンケートの結果から

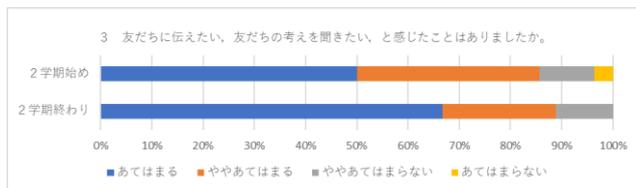
① 関心・意欲，課題意識



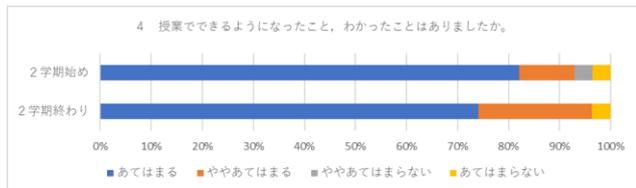
② 見通し



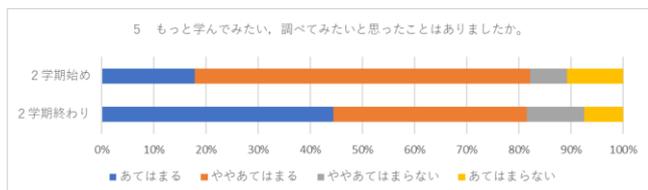
③ 話し合い・学び合い（協働の学び）



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ（学びの連続性）



【視点Ⅰ】

○ 中心人物の変容は，展開場面で出会う人やもの（対役）によって起こることを，図を用いた板書に表すことで，明確にすることができた。

○ 「中心人物の変容に対役が果たす役割を考えるには，複数の場面の叙述のつながりを意識して読む必要がある」ことを，児童は互いの考えに関心をもって話し合うことをとおして気付くことができた。（アンケート③との関連）

● 当初は前時まで学習した叙述が最終場面でのようにつながっているか考える児童が少なかった。発問は「最終場面の『きれいな川は～』が意味することは何か」などとし，展開場面の叙述と結び付けて考えるなどの流れの方がよかった。

● 「綾が出会ったものや人の中で“いちばん”重要なのはどれか」といった取れん的思考を促す発問を工夫することで，よりねらいに沿った授業になったと考えられる。

【視点Ⅱ】

○ 言葉にこだわって読むよさを感じたり，友だちの意見から学びを深めたりしたことを振り返る姿が見られた。（アンケート⑤との関連）

● 「今日の学びをどのように生かしたいか」を問い，本時のねらいと結び付けて考えている児童の考えを紹介し，共有することで，今後の読書領域の拡充につなげたい。

実際の指導案はこちらへ